

## ヒガンバナの一新変種と一新品種

著者	米澤 信道
著者別表示	Yonezawa Nobumichi
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	37
号	2
ページ	73-74
発行年	1989-12-25
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00055967">http://doi.org/10.24517/00055967</a>

Stylus 6, apice obtusus leviter bilobatus.

Hab. Ryukyus: Mt. Komi, Isl. Iriomote, unknown collector, cultivated by YAMAHATA in Osaka, May 15, 1988 (holotype in KAG.)

This is closely related to *A. gelasinum* (F. MAEK.) HATUSIMA from which it differs by its narrower orifice at throat of calyx-tube, its pubescent tessellate reticulation of the inner surface of calyx tube which gradually disappear up toward, and its 6 styles and 12 stamens instead of 3 styles and 6 stamens.

#### 摘 要

#### 10. シシキカンアオイ *Asarum hexalobum* var. *controversum* HATUSIMA & YAMAHATA

本変種は神戸学院大学の斉木保久氏が長崎の平松信夫氏に依頼して平戸島のウンゼンカンアオイを送ってもらった時に混っていたものが最初の発見で、その後平松氏から前川博士に渡って上記の仮名がつけられたものである。本変種は母種のサンヨウアオイとは全体が小形で、葉は長さ5 cm位、花は汚れた紫色又は淡紫黄白色である点で違っている。和名は平戸島の志々岐山に由来している。

#### 11. マルミカンアオイ *Asarum subglobosum* F. MAEK.

本種はもと静岡薬科大学にいた故原田利一氏が戦前肥後の市房山で発見したもので、その後熊本県南部、宮崎県に分布することがわかった。本種は低地からブナ帯まで見られ海拔1100 mにも産することがある。本種はツクシアオイに似ているが、萼筒は円く、その舷部は平坦で無毛である点で区別される。

#### 12. モノドラカンアオイ *Asarum monodori-florum* HATUSIMA & YAMAHATA

本種は筆者の一人初島が1973年8月2日西表島の古見岳に登山した折発見したもので、その栽培を沖縄の中島邦雄氏に依頼したところ翌年開花したので同氏から前川博士に送ったところ新種であることがわかり、裸名のまま発表されている種類である。本種は西表島産のエクボサイシンに似ているが、萼片の基部に口環が発達し、開口が狭く、萼筒内の格子状隆起脈上に微毛が密生し、縦脈が上部でとぎれている点と、雄蕊、雌蕊が倍の12と6になっている点で区別できる。種名の *monodori-flora* は本種の花がパンレイシ科の *Monodora* 属の花にやや似ている点で付けられたものである。

附記：シシキカンアオイとマルミカンアオイの発見のいきさつについては上記の斉木保久氏に御教示を頂いたので厚く御礼申し上げます。

(Received May 31, 1989)

#### ○ ヒガンバナの一新変種と一新品種 (米澤信道\*) Nobumichi YONEZAWA: A New Variety and a New Form of *Lycoris radiata* (L'HERIT.) HERB.

日本産ヒガンバナは3倍体で不稔、前川文夫博士の史前帰化植物説が有力である。

ところで、京都市左京区の3ヶ所(松ヶ崎、上高野、大原)では、葉の幅、葉の展開期、花期などヒガンバナと同じでありながら、花が小さく、花被片の縁がほとんど波打たず、花被片は強く反曲しない、花色が淡紅色から白色に近い変わったヒガンバナを産することが分かった。松ヶ崎の集団は、とくに大きく、花期には美観を呈し、1985年に妻の米澤和子が発見している。その後、筆者も1988年になって、上高野、大原の2ヶ所で発見し、調査を行った。3ヶ所とも田畑の畦で、付近には普通のヒガンバナも産する。Table 1は、1988年秋、野外(京都市左京区)で、双方30個体サンプリングを行い、生の状態で各部を測定したものである。これによると、花被片の長さ、花筒部の長さ、花柱の長さ、花糸の長さにおいて、明らかな不連続が両者の間には認められる。このような花の各部のサイズ、花色、花被片の反曲の程度、縁の様子等に関する差異を考慮して、新変種として発表する。和名は、「童の簪」の意味である。本変種は、母種に比べると、可憐な感じのするもので、観賞価値も高く、有効な保護対策が必要である。

なお、ヒガンバナで、花被片の縁、雄ざい・花柱の一部が退色した様に白っぽくなるものがある。このものは、花数、花茎の高さ、花の大きさ等、さらに花被片の縁が波打ち、花被片が強く反曲する等の点もヒガンバナと同様である。ワラベノカンザシに比べて、やや普通に産し、京都市左京区の松ヶ崎、上高野、大原、静岡の田畑の畦で確認している。花色だけの差異であるので、新品種として発表する。和名は「二色彼岸花」の意味である。本稿につき、御指導・助言を頂きました里見信生先生とラテン文の校閲を頂きました豊国秀夫先生に、心より感謝申し上げます。

#### *Lycoris radiata* (L'HERIT.) HERB. var. *kazukoana* YONEZAWA, var. nov.

Descriptio: Scapi 12-49 cm alti. Pedicelli 4-13 mm longi. Flores umbellati pulchri dilute rubri vel albentes 4-7, tepalis plerumque inflexuosis et leviter reflexis 15-32 mm longis 2-5 mm latis, tubis 2-5 mm longis,

Table 1. Measurement of 8 morphological characters in two varieties of *L. radiata*.

Morphological character		<i>L. radiata</i> var. <i>radiata</i>		<i>L. radiata</i> var. <i>kazukoana</i>	
		Mean±SD	Range	Mean±SD	Range
Tepal length [mm]	Maximum	41.2±2.49	38-47	24.1±3.17	18-32
	Minimum	37.5±2.00	35-42	21.5±2.88	15-27
Tepal width [mm]	Maximum	7.6±0.49	7-8	4.0±0.63	3-5
	Minimum	5.5±0.50	5-6	3.0±0.63	2-4
Filament length [mm]	Maximum	79.0±5.18	69-87	35.6±6.72	25-48
	Minimum	74.2±5.14	63-84	28.4±6.09	15-42
Flower tube length [mm]	Maximum	7.2±0.72	6-9	3.5±0.67	2-5
	Minimum	6.7±0.47	6-7	2.8±0.65	2-4
Pedicel length [mm]	Maximum	18.4±2.89	13-22	10.6±1.36	7-13
	Minimum	12.8±1.60	9-15	6.5±1.52	4-10
Style length [mm]		99.8±5.36	91-111	48.8±8.31	31-66
Scape length [cm]		48.2±7.73	31-59	29.4±8.62	12-49
Flower number		7.6±1.20	5-11	5.5±0.85	4-7

stylis 31-66 mm longis, filamentis 15-48 mm longis.

Diagnosis: Haec varietas *Lycoridi radiatae* var. *radiatae* affinis est, sed ab ea floribus exiguis dilute rubris vel albis, tepalis plerumque inflexis et leviter reflexis facile distinguitur.

Nom. Jap. Warabe-no-kanzashi

Hab. Japan, Honshu, Pref. Kyoto: Kamitakano, Sakyo-ku, Kyoto City, alt. ca. 100 m. Sept. 25, 1988, N. YONEZAWA No. 10100 (KANA No. 130005). Matsugasaki, Sakyo-ku, Kyoto City, alt. ca. 70 m. Oct. 2, 1988, K. YONEZAWA & N. YONEZAWA (Holotype in KANA No. 130006). Ohara, Sakyo-ku, Kyoto City, alt. ca. 250 m. Oct. 16, 1988, N. YONEZAWA No. 10120 (KANA No. 130004).

***Lycoris radiata* (L'HERIT.)**

**HERB. form. *bicolor* YONEZAWA, form. nov.**

Flores bicolores. Tepala rubra et albo-marginata.

Nom. Jap. Nishiki-higanbana

Hab. Japan, Honshu, Pref. Kyoto: Matsugasaki, Sakyo-ku, Kyoto City, alt. ca. 70 m. Oct. 2, 1988, K. YONEZAWA & N. YONEZAWA (Holotype in KANA, No. 130003). Ohara, Sakyo-ku, Kyoto City, alt. ca. 250 m. Oct. 10, 1988, N. YONEZAWA No. 10110 (KANA, No. 130001). Shizuhara, Sakyo-ku, Kyoto City, alt. ca. 210 m. Oct. 16, 1988, N. YONEZAWA No. 10124 (KANA No. 130002).

(\*成安女子高等学校 〒602 京都市上京区相国寺北門前町 Seian Girls' Senior High School, Kitamonzen-cho, Shokokuji, Kamigyō-ku, Kyoto City, Kyoto 602, Japan)



Fig. 1. *Lycoris radiata* var. *kazukoana*



Fig. 2. *L. radiata* var. *radiata* form. *bicolor*